

2017

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.47

なんと!

日本の医療費は一日1,100億円弱!

—国家予算の半分を占める社会保障費をどうするのか

日本の年間国家予算が約96兆円、その内、医療費が約40兆円を占めることは、何となく聞いたことがある方は多いと思う。医療費の占める割合が巨額な訳であるが、約40兆円と言われてもなかなかピンと来ないと思われる。

しかし、これを365日で割ると、なんと!一日あたり約1,097億6,000万円と1,100億円弱となる。これは、厚生労働省が毎年発表している『厚生労働白書』の中の要点を要約し、分かり易く日本の現状を表した「日本の1日」という資料の中でも紹介されている。

この「日本の1日」は「日本で一日に起こる出来事の数調べてみました。それぞれの直近の数字である。(平成23年～平成27年)」とあるように2011(平成23)年～2015(平成27)年の平均値となっている。医療費だけではなく、人口、成人、雇用、結婚、育児、介護、

犯罪など各項目にわたって日本の1日の実態を数字で明らかにしている。

民間企業の年間売上高でも1,097億円を超える企業は、856社とそう多くはない。ましてや当期純利益となると、わずか67社とさらに少ない。しかし、現実には日本では毎日1,100億円弱が医療費として消えていることになる。

国家予算のプライマリーバランスの健全化が、国政の重要課題としてあげられるが、現実的には、この医療費をはじめ社会保障費に関わるコストをいかに考えるかが大きなカギとなる。

本稿を書いている時点では、世はまさに「国難突破解散」と安倍首相が名付けた突発的な衆議院総選挙が幕を切ろうとしている。安倍首相は消費税の増税分を国家予算の借金返済

に充てるのではなく、「2020年度までに3～5歳の幼稚園・保育園費用の無償化」など、子育て世代への投資拡充に向けた消費税の使い道の見直しについて「国民の信を問いたい」としている。

小池新党こと希望の党が旗揚げされ、民進党と自由党の合同が噂されているが、読者諸氏がこの原稿をご覧になっている時点では衆議院選挙の勝敗が決していることと思われる。果たしてどの政党が政権をとろうと、この医療費の問題は簡単には解決出来るとは思えない。

■参考資料

日本の1日
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16-3/dl/02.pdf>
売上高ランキング(1,097億円以上)
<http://www.ullet.com/search/page/42.html#page/43>
当期純利益ランキング(1,097億円以上)
<http://www.ullet.com/search.html#ranking/301/page/4>

日本の1日

日本で一日に起こる出来事の数調べてみました。それぞれの直近の数字である。(平成23年～平成27年)

医療について

▶入院しているのは?※1

1,318,800人

- 循環器系では? 240,100人
- 統合失調症では? ... 165,800人
- がん等では? 144,900人

▶通院しているのは?※1

7,238,400人

- 循環器系では? 933,000人
- がん等では? 231,600人
- 糖尿病では? 222,300人

▶国民全体の医療費は?

約1,097億6,000万円

●一人当たりだと 862.2円

※1:宮城県、石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。



出典元:平成27年版厚生労働白書「人口減少社会を考える」(日本の1日)より



美楽からの一言

国家予算における医療費の問題は、本項でも何度か紹介してきた。しかし、一日当たりの数字として1,100億円弱と提示されるとどうだろう。日本の抱える課題の大きさが浮き彫りとなる。大切なことは私たち一人一人が、この現実を数字ベースで正しく知っておくことではないだろうか。